

令和 **5** 年版

ムリなく・ムダなく・かしこく

資産づくりの キホン

2024年からの
新しいNISAに対応!



貯金

年金

保険

投資

がわかる!

はじめに

あなたの叶えたい夢はなんですか？ 人生100年時代、しかも、先の見えない状況の中、お金をかしこく使い、貯め、運用する力がより必要とされます。

お金を使うも貯めるも自分次第。たとえ収入が同じでも、お金の運用の仕方によっては、将来の資産は違ってくることになります。

「資産づくり」は、自分や家族が豊かで幸せな人生を送るため、そして万一のときには生活を守るための大事な備えです。預貯金だけでなく、年金・保険・株式・不動産などの資産を上手に組み合わせて運用することで、リスクを分散できるだけでなく、より高い収益を得ることも期待できます。

本冊子は、これから資産づくりをはじめの方にもわかりやすく、給与明細の見方や貯金のコツから年金・保険・投資のはじめ方まで、ムリなく・ムダなく資産づくりを進めていただくために、これだけは知っておきたい大事なポイントをまとめました。

資産づくりは、“人生を描く”ことからはじまります。そこで、ライフプラン（人生設計）とファイナンシャルプラン（資金計画）の書き込み式のページをご用意いたしました。

資産所得倍増プランの実現に向けて「貯蓄から投資」への流れを加速する環境整備が進められていますが、資産づくりは、早くはじめるほど効果的です。小さな資産を安全に大きな資産へ育てるには、長い時間がかかるものです。この“時間”に加えて、NISAなどの税制メリットを味方につけることで、より安全に、リスクも分散できる効果が期待できます。

あなたの夢を叶えるために欠かせない“資産づくり”を、ご一緒にはじめてみませんか？

目次

● 2024年からの新しいNISA 2

第1章

「資産づくり」ってなに？

- ① あなたの未来を描いてみよう！ 4
- ② 「資産づくり」が必要なワケ 6
- ③ 資産の状況を把握しよう！ 8
- ④ 実際に計画を立ててみよう！ 10

第2章

貯金・年金・保険・投資ってなに？

- ① 資産づくりの方法は4つ 12
- ② 貯金のキホン 14
- ③ 年金のキホン 16
- ④ 保険のキホン 18
- ⑤ 投資のキホン 20

第3章

投資対象を知ろう！

- ① 株式のキホン 22
- ② 債券のキホン 24
- ③ 投資信託のキホン 26

第4章

税制メリットを活用しよう！

- ① iDeCoのキホン 28
- ② NISAのキホン 30

● 家計を振り返ろう！ 32

2024年からの

新しいNISA

NISA制度はこう変わる

2024年1月から、新制度がスタート！

- 制度が恒久化され、非課税保有期間が無期限に
- つみたて投資枠 と 成長投資枠 の2種類になり、併用可能に
- 年間の投資上限額は計360万円、非課税保有限度額は計1,800万円に



つみたて投資枠

年間**120**万円

併用可
年間最高
360万円



成長投資枠

年間**240**万円

そもそもNISAって？

NISA（ニーサ）とは、NISA口座内で購入した株式や投資信託の配当金や売却益に税金がかからない制度です。2023年時点では、つみたてNISA、一般NISA、ジュニアNISAの3種類があり、投資可能期間（口座開設期間）や年間投資額、非課税保有期間などに制限があります（30ページ参照）。この制限を緩和し、貯蓄から投資への流れを加速するために、2024年からは新制度として恒久化されることとなりました。

2024年からの

新制度のポイント

区分	つみたて投資枠  併用可	成長投資枠
年間投資上限額	120万円	240万円
非課税保有期間	無期限 	ずっと使える！
非課税保有 限度額	1,800万円 ※うち成長投資枠は1,200万円まで	
投資可能期間 (口座開設期間)	恒久化 	いつでも使える！
対象年齢	18歳以上	
投資対象商品	長期の積立・分散投資に 適した投資信託 ※現在のつみたてNISAと同様	上場株式・ 投資信託など

⚠️ ここに注意！

2023年末までにNISA制度で投資した商品については……

- 投資時点のNISA制度の非課税措置が適用される
- 新制度とは別枠で運用できる

30～31ページもあわせてチェック！

Section

1

あなたの未来を描いてみよう！

「資産づくり」をはじめる前に、まずはあなたの未来を自由に描いてみましょう！
やりたいこと、チャレンジしたいことなど、夢を叶えるためにはお金がかかります。
そこで、いつまでに、どのくらいお金を準備したらよいかを知っておきましょう！



ライフスタイル・暮らし

社会人のお金情報

一人暮らし費用例

- ▶家賃 **8**万円/月
- ▶食費 **4**万円/月
- ▶水道・光熱費 **2**万円/月
- ▶通信費 **1**万円/月
- ▶交通費 **1**万円/月
- ▶車関連費 **6**万円/月
- ▶交際費・その他 **3**万円/月 etc...



趣味

趣味のお金情報（目安）

- ▶旅行 **3~30**万円/回
- ▶ゴルフ **3**万円/回
- ▶ヨガ **1**万円/月 etc...



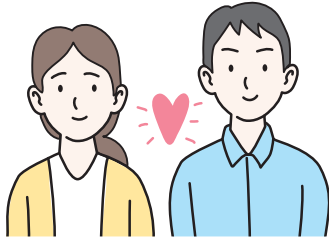
学び・スキルアップ

スキルアップのお金情報（目安）

- ▶ITスキル **2**万円/月
- ▶英会話 **1**万円/月
- ▶ビジネススクール **3**万円/月 etc...

4

結婚



結婚のお金情報（目安）

▶ 結納	180万円
▶ 結婚式	360万円
▶ 新居費用	70万円
▶ 新婚旅行	70万円
	etc...

6

出産・子育て・教育



出産・子育て・教育のお金情報（目安）

▶ 出産費用	※1 50万円
▶ 教育費	※2 50万円
▶ 習い事	1万円~/月
	etc...

※1 自己負担の目安
 ※2 子ども1人当たり年間目安（私立幼稚園）

5

住まい

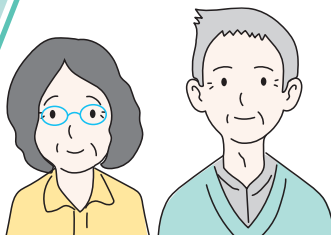


マイホームのお金情報

3,000万円の**新築マンション**購入例

▶ 頭金	600万円
▶ 購入費用	2,400万円
▶ 諸費用	150万円
▶ 引越・家具代	150万円
	etc...

老後



老後のお金情報（目安）

▶ 平均的な生活費	27万円/月
▶ ゆとりのある生活費	36万円/月
▶ 入院時の医療費	2万円/日
▶ 介護費用	7万円/月
	etc...

※上記各費用は、総務省統計局「家計調査年報（家計収支編）2019年（令和元年）」、同「子供の学習費調査」（2018年）、公益財団法人日本生産性本部「レジャー白書」（2018年）、株式会社リクルートマーケティングパートナーズ「ゼクシィ結婚トレンド調査」（2020年）、公益社団法人国民健康保険中央会「統計情報」（2016年）、公益財団法人生命保険文化センター「令和元年度生活保障に関する調査」、各種スクールのウェブサイトなどのデータを参考に算出。なお、新型コロナウイルス感染症の流行を考慮し、影響が少ないと推測される年のデータを選定した。

「資産づくり」が 必要なワケ

1 「資産づくり」はマイペースで

「資産づくり」とは、自分の資産（お金に換えることのできる財産）を増やすために、貯金や投資などを行うことです。とは言っても、「いきなり株で大儲けを狙う」ということではありません。

資産づくりは、毎月の給与やボーナスから、少額をコツコツと貯めていくことから始まります。

資産を増やすには、堅固な土台づくりが大切です。ムリなく・ムダなくマイペースで継続していきましょう。



2 どうして資産づくりが必要なの？

資産づくりは、将来かかるお金を確保するために行います。4～5ページで見てきたように、夢を叶えるには何かとお金がかかるもの。早めに準備することで、お金だけでなく心のゆとりも生まれます。

「お金のかかる趣味も予定もないし、私には資産づくりは関係ないな」と思う人もいるかもしれませんが、長い人生では、突然収入が減ったり、病気で働けなくなったりする可能性もあります。老後の生活資金を確保するためにも、資産づくりは大切です。人生100年時代とはいえ、シニア世代になってから現役世代と同じように稼ぐのは難しいでしょう。だからこそ、早めの準備が必要なのです。

COLUMN

人生のお金の「稼ぎ時・貯め時・使い時」って？



人生には、お金の「**稼ぎ時・貯め時・使い時**」があります。

社会人としての現役世代は、まさに「**稼ぎ時**」。夢を叶える大切な資金を稼ぐ期間ですが、一方でさまざまなイベントがあります。

マイホームや結婚、出産・子育て・進学などと、お子さんの独立までは、お金がかかる期間でもあります。そのため、特に子育て世代の方からは、「貯金なんて、思うようにできない！」という声がとても多いです。

でも、子育ての期間でも、「**貯め時・使い時**」があります。一般に、結婚からお子さんが小学校の低学年の頃までは、まさに「**貯め時**」です。そして、教育費がかかるようになると、「**使い時**」に変わります。

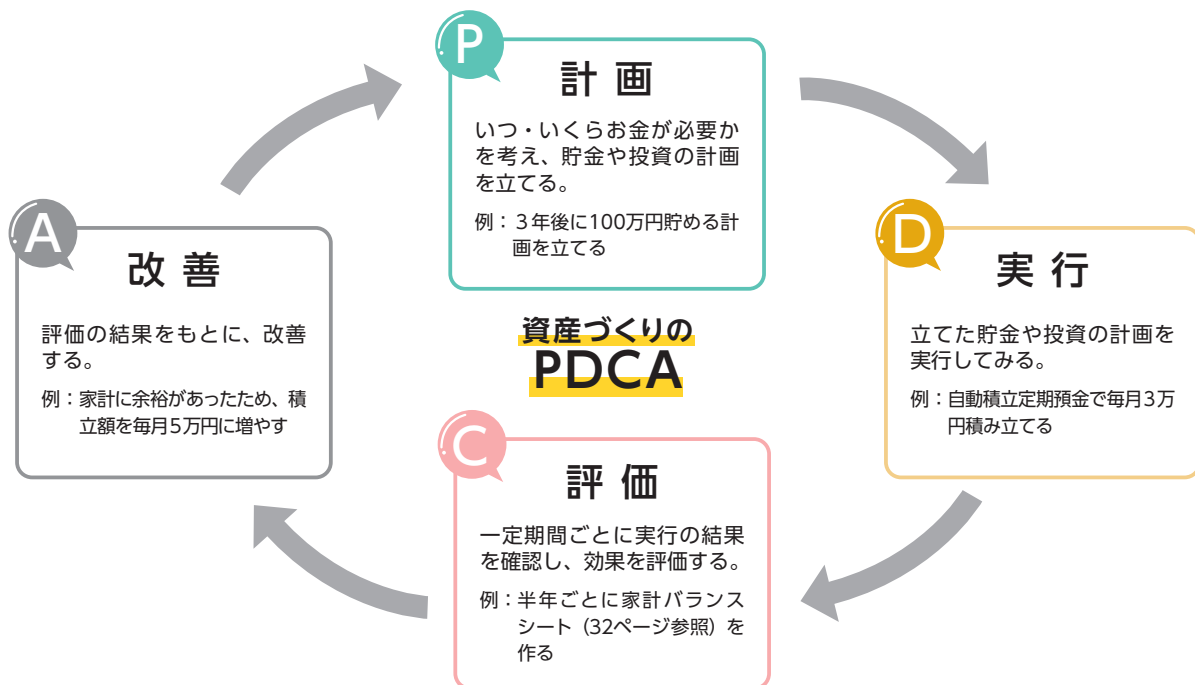
この貯め時にいかに貯められるかで、資産づくりにも差がつかます。でも、家計は大変な時期。ですから、ムリなくできることでOK！例えば、以下のようにできることからひとつずつやってみてはいかがでしょうか。

- 支出のメリハリ……優先順位をつける
- 予算立て……電化製品など大きな買い物の際は、予算を立ててから購入する
- 情報を味方につける……お得なキャンペーンを使う、ポイントを貯める など

3 資産づくりの流れ

資産づくりをスタートしてみると、毎月の貯金目標が高すぎてムリがあったり、少なくて目標に足りなかったりすることもあります。このようなときは、そのまま放っておくのではなく計画の見直しをすることで、早い段階で修正することができます。

計画の見直しには、「PDCAサイクル」の活用がおすすめです。「PDCA」とは、「PLAN：計画」、「DO：実行」、「CHECK：評価」、「ACTION：改善」を指しています。この流れを定期的に繰り返し、計画の実現性を高めましょう。



4 資産づくりと計画

資産づくりを成功させるには、最初のステップ、「計画（PLAN）」がポイントです。計画を立てるには、大きく「ライフプラン（人生設計）」と「ファイナンシャルプラン（資金計画）」の2つに分けて考えることが大切です。

S T E P 1 ライフプラン(人生設計) 設計図

- 💡 やりたいこと・叶えたいことは？
- 💡 いつまで働く？
- 💡 どこに住む？

S T E P 2 ファイナンシャルプラン(資金計画) お金

- 💡 夢を叶えるためには、「いつ」までに「いくら」必要？

計画を立てるためには現状の確認が大切です。次のページで、現在の資産の状況を把握しましょう。